

団体名	広島県	所属	自然環境課	他団体等との連携	国，2県7市1町，地域住民
連絡先	野生生物グループ (082)513-2933				

取組事例名	地域ぐるみのアルゼンチンアリ防除活動	取組期間	平成18年3月～
--------------	--------------------	-------------	----------

取組の概要 ～ アルゼンチンアリ対策広域行政協議会による地域の防除活動支援

日本で初めてアルゼンチンアリの生息が確認された広島県廿日市市とその後生息が確認された周辺自治体において，広域的に防除対策に取り組むための「アルゼンチンアリ対策広域行政協議会」を平成18年3月に設置し，国庫補助事業を活用した地域ぐるみの一斉防除の実施や自治会向け「アルゼンチンアリー斉防除マニュアル」を作成するなど，地域住民の自主的な防除活動を支援している。

【アルゼンチンアリについて】

アルゼンチンアリは，南米原産のアリで人間の交易に附随して，ここ100年ほどの間に世界中に広がった侵略的外来生物の1つです。日本では1993年に広島県廿日市市で最初に発見され，その後周辺などに分布を広げています。侵入地では，在来アリを駆逐するなど生態系への影響が心配されるほか，頻繁に家屋内へ侵入し，食品に群がったり，布団の中にまで入り込んで安眠を妨げたりと衛生害虫として大きな問題になっています。このため，外来生物法の「特定外来生物」に指定されています。

取組の背景 ～ 日本初の生息確認，生息地域の拡大

平成5年に広島県廿日市市において日本で初めてアルゼンチンアリの生息が確認され，その後，生息地域が徐々に周辺地域に拡大した。

そのため，関係自治体が連携して，広域的にアルゼンチンアリの対策に取り組むための「アルゼンチンアリ対策広域行政協議会」を設立し，地域住民が主体的に防除活動に取り組めるよう支援している。

取組のねらい ～ 住民による地域ぐるみの防除実施

地域住民が主体となって，アルゼンチンアリの防除に効果的に取り組めるようにすること。

取組の具体的内容 ～ 広域的な防除支援

- 1 広島県，廿日市市，山口県，岩国市など関係自治体が連携して，広域的にアルゼンチンアリの対策に取り組むための「アルゼンチンアリ対策広域行政協議会」を設置（平成18年3月）
- 2 協議会の事業として，市販の殺虫剤を使用した防除試験を実施（平成19年10月）
- 3 協議会の事業として，環境省の生物多様性保全推進支援事業を活用し，住民ボランティア参加による地域ぐるみの一斉モデル防除試験を実施（平成20年～平成22年）
- 4 地域住民の防除活動を支援するため，協議会が防除パンフレットを作成（平成22年3月）
- 5 一連の防除試験の結果を分析・検証し，自治会向け「アルゼンチンアリー斉防除マニュアル」を作成（平成23年3月）
- 6 当協議会のメンバーは2県7市1町となり，地域住民が実施する一斉防除活動で使用する薬剤購入支援や自治会の行う防除活動に参加するなどの支援活動を行っている。



〔アルゼンチンアリ対策広域行政協議会〕



〔一斉防除マニュアル〕

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 地域における効果的な防除

地域での防除活動を継続的、効果的に実施するためには、生息状況や防除方法などの情報を、地域住民に周知する必要がある。

創意工夫した点 ～ 地域の主体性を維持しつつ支援

- 1 地域で自ら防除活動に取り組めるよう、アルゼンチンアリの生息状況、性質、防除方法などについて周知するためのパンフレットを協議会で作成し、自治体を通じて関係自治体に配布した。
- 2 自治体主催による一斉防除活動を一層効果的なものとするため、協議会構成員が防除実施時に現地で直接指導を行った。

【協議会作成パンフレット（表）】

【一斉防除とは】
アルゼンチンアリの被害、被害アリは農産物やゴミなど集まる場所、特に生息地を把握しやすくするため、それぞれが防除の中心となること。高層ビルや公園の清掃（ゴミ収集）で実施している場合があります。

※防除活動の目的は、生息地を把握し、その場所から侵入して被害が拡大しないこと、また、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと。一斉防除活動は、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと、また、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと。

【防除】
協議会が主催する防除活動、市民の防除活動との連携を促進し、いすれも被害が拡大しないよう、被害を減らすことを目的としています。

自治体	アルゼンチンアリ防除活動
協議会	アルゼンチンアリ防除活動
市民防除活動	アルゼンチンアリ防除活動

【自治体防除活動を主体とした防除】
大町市では、自治体防除活動を主体として一斉防除活動を行っています。一斉防除活動に参加する自治体アリの生息状況（集まる場所や被害が拡大する場所）を確認して実施し、防除を確立してからの防除活動で、被害を減らすこと、また、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと、また、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと。

【ペイト(防)防除活動を主体とした防除】
自治体、協議会が主催する防除活動、市民の防除活動との連携を促進し、いすれも被害が拡大しないよう、被害を減らすことを目的としています。

ペイト(防)防除活動は防除しやすくするために、手の届く範囲に設置する必要があります。また、防除活動の目的は、生息地を把握し、その場所から侵入して被害が拡大しないこと、また、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと。

防除活動の目的は、生息地を把握し、その場所から侵入して被害が拡大しないこと、また、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと。

防除活動の目的は、生息地を把握し、その場所から侵入して被害が拡大しないこと、また、被害が拡大した地域で、被害を減らすこと。

アルゼンチンアリの被害を防ぐために



アルゼンチンアリ対策協議会

取組の成果（効果） ～ 生息確認できない地域も

防除の必要性を認識し、積極的に地域ぐるみの一斉防除活動に取り組んでいる自治会においては、アルゼンチンアリの目撃数が減少傾向にある（中には生息が確認できない地区も見受けられる）。

【一斉防除活動の様子】



今後の展開 ～ 継続的な防除の実施

アルゼンチンアリの完全な防除に向けて、住民の防除意欲の維持（高揚）のため、防除活動における効果事例の紹介など様々な支援を展開していく。

他団体へのアドバイス ～ 広域連携の強化

外来種の防除活動に係る取組を実効性の高い活動とするためには、正しい方法による防除を早め早めに広い範囲で実施する必要がある。

また、生息地域などの情報に基づき防除活動を実施する必要があることから、複数の自治体による情報共有や対策に向けた検討を速やかに行うことが重要である。